

たじみん昼話 64

激しく変化する世の中で必要なもの

変化の激しい現代で生きていくためには、変化に対応するためのスピードと変化の先にある未来を予測する力を身につけることが求められる。しかし、AI やウィルスによる生活の変化を誰も予測できなかったように、未来は完全に予測できない。ましてや先回りして準備すること等ほぼ不可能と言えるだろう。

一方この変化の激しさは、学びにおける知識習得に関する価値観の再考を促す。必死で身につけた知識は、激しい変化の中ですぐに過去のものとなり、社会に出たころは陳腐化して役立たなくなるからだ。

したがって、この状況に対応するためには、我々の学びの労力と観点を、出来ない守りの思考である未来予測から、積極的に攻める思考の創造性思考へシフトしなければならない。

現在、多治見高校の各教科学習は、知識＋多様かつ多面的思考方法の構築を目指す授業を展開している。この授業展開の目的は、激しく変化する社会で生きるために必要な考える力を育成することだ。即ち、課題解決のために必要なことを、世の中から引っ張り出してくる能力の育成だ。この引っ張り出してくる情報や知識には、見えるものと見えないものがある。本校が特に重視しているのは、見えないものを見極める力、即ちグローバルな創造的思考力だ。

現在高校では、グローバル人材の育成が急務となっており、語学学習に力を入れつつある。しかし、ここで想定されている能力は、日本の伝統である神輿や相撲や能・歌舞伎を英語で語る人間を育成することではない。真の狙いは、これらの文化や伝統芸能が我が国の生活基盤や社会形成に与えた影響を語れる人間の育成だ。即ち各国が持つ芸能や文化を考察して話すことできる人間が求められているのだ。したがって、自国の文化芸能だけでなく諸外国の文化芸能にも精通した上で、日常で、どれだけ自らの知識や世の中の事象から必要な要素を引っ張り出してきて比較考察してきた経験と姿勢が求められるのだ。

この力をつけるためには授業以外で何を学べばよいのか？ききょうは文学の読み込みを勧める。人の心の機微を扱った、夏目漱石の心や、森鷗外の舞姫等を読み込むことだ。この読み込みでは、人間の価値観を常に自問自答し、自分はどう生きていくのかを考え続けることを行う。これらの名作には、すぐに陳腐化する知識は書かれていない。しかし自らの思考を鍛え上げる方法が書いてある。この体験を通して、これから必要な普遍的な思考力は鍛え上げられるだろう。

お薦めだ。